

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	長岡京市新庁舎等	階数	地下1階,地上8階
建設地	京都府長岡京市	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	1,500 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,600 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,集会所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2020年1月26日
敷地面積	6,635 m <sup>2</sup>	作成者	成瀬 壮太
建築面積	3,171 m <sup>2</sup>	確認日	2020年1月28日
延床面積	19,470 m <sup>2</sup>	確認者	榎 恭志郎



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 2.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算: ①参照値 100%, ②建築物の取組み 79%, ③上記+②以外の 79%, ④上記+ 79%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 4.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.5

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
太陽光や通風など自然の恵みを活かした環境にやさしいシステムを積極的に活用する。 外の熱を入れない、内の熱を逃さない高断熱化に取り組む。 ライフサイクルコストに配慮した構造及び設えとする。	計画敷地は市の主要道路であるアゼリア通りに面していることを考慮し、景観を調和するアースカラーを基調とした色彩、竹をモチーフとした外観デザインを採用するとともに、凹凸のある建物形状とすることでボリューム	
<b>Q1 室内環境</b> 執務空間は、極力自然エネルギー(光、風)を利用できる室配置を工夫している。また、直射日光の進入抑制に有効な庇を各所に配置している。	<b>Q2 サービス性能</b> 執務スペース等は大空間、パーティション等による間仕切り壁、OAフロアとし、将来のレイアウト変更柔軟に対応できる計画とする。そのほか設備機器を中心とした維持管理の効率化のため、省エネ管理システムを導入する。ま	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内については十分な緑化を行うほか、屋上緑化を実施し、地域アメニティの向上と緑化による景観形成およびヒートアイランド防止に貢献する計画としている。建物は東西軸配置とし、空調負荷が大きくなる東西面の
<b>LR1 エネルギー</b> 井水を雑用水に利用するため、井水利用可能な設備を設置する。雨水を植栽散水に利用するため、雨水の再生利用が可能な設備を設置する。また、地中熱を利用した外気負荷低減を図るため、外気導入のためのピットを確保する。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 環境負荷の軽減、人体への安全性及び快適性を考慮して、竹等の市内木材をはじめとする天然材料を採用する。	<b>LR3 敷地外環境</b> 敷地境界線から建物を極力セットバックすることで、周囲への圧迫感の軽減を図っている。低層部には大屋根を設け、開放的なガラス張りとする事で、庁舎内のにぎわいや活気が感じられる設えとする。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される